

# 「知られざる完全不倫」

—初稿—

2025/3/4

雨森 れに

〈人物表〉

武田 和樹

(35) 不倫の前科があり、今はなつみとW不倫中

宇野 なつみ

(27) 和樹の現不倫相手

武田 沙理

(30) 和樹の妻

〈ログライン〉

なつみとW不倫関係にある和樹は、なつみにペアリングを贈りふたりでいる時だけ着けているが、和樹の浮気癖を心配する沙理の目の前で落とし疑念を持たれるも、結婚指輪が体形の変化で入らないと誤魔化し事なきをえる。

〈テーマ触媒〉

何も起こらない話

〈テーマ／フック〉

日常に隠れる罪／不倫相手にペアリング

## 1. 漫画喫茶・個室（夜）

完全個室のフラットシート。

服の乱れた宇野なつみ（27）と武田和樹（35）。

なつみ 「そういえば今度のキックオフ行くの？」

和樹 「俺は行かないきゃ人事にシバかれるわな。なつみは？」

なつみ 「いなきやいけない時間までいるよ」

和樹 「……その後は？」

なつみ 「今度はホテルで、とか？」

なつみが悪戯っぽく笑う。

和樹も笑い返し、なつみに覆いかぶさる。

ふたりの右手薬指には、お揃いの指輪が光る。

## 2. キックオフ会場・受付（夕）

ホテルの貸し会場。

クロークの隣に設置されている受付に、なつみが立っている。

荷物を預けた和樹が受付へ。

和樹 「お疲れ様です。営業の武田です」

なつみ 「武田部長、ですね。お疲れ様です。こちらネームプレー

トとビンゴカードです」

なつみの右手に指輪はない。

和樹 「へえ。ビンゴなんてあるんですね」

和樹がビンゴカードを見る。

和樹の右手にも指輪はない。

## 3. キックオフ会場・ホール（夕）

立食パーティー仕様になっている。

なつみと和樹はそれぞれ別の場所で乾杯している。

× × ×

ガヤガヤとする会場。

和樹の足元には袋に入った大きなぬいぐるみ。

社員A 「部長がぬいぐるみ当てるとは思わなかったな」

和樹 「俺だつてスタバチケット欲しかったよ。これは嫁にやる

よ」

社員A 「そのへんの女性社員じゃないってのが愛妻家ですよね。俺んところ、嫁、マジこわいんすよ」

和樹 「うちも災害レベル高いよ？」

社員A 「えー。よく車で迎え来てくれてるじゃないですかー」

和樹 「バカ。寄り道しないように監視されてんだよ。外回りの時以外は絶対来るわけ」

社員A 「ひえ！ 独占欲やばくないっすか、それ」

和樹が渋い顔してグラスを煽る。

和樹 「だろ。ところで今何時？」

× × ×

社員B 「宇野さんのご主人って、今どこにいるの？」

なつみ 「ベトナムだって。中国よりは過ごしやすいみたい」

社員B 「歯科技師さんも大変だねえ」

なつみ 「その分、私は刺激的なドラマ楽しんでるんで」

社員B 「好きだね、韓流。ドラマの時間、大丈夫なの？」

なつみ 「あ、そうだ。（腕時計を見て）帰らなきゃ」

なつみ、社員Bと分かれクロークへ。

#### 4. キックオフ会場・クローク（夜）

荷物待ちの列、最後尾になつみ。

その後ろにぬいぐるみの袋を持った和樹が並ぶ。

なつみは和樹に気づくが、何も言わずに前を向く。

武田沙理（30）がクロークに現れる。

和樹を見つけ、駆け寄る。

沙理 「お疲れ様。もう終わりだよね？」

和樹 「あれ、今日迎えいらなくて言わなかったっけ」

沙理 「なに、二次会？ 誰と？」

沙理がクロークに並んでいる人間らを睨む。

和樹 「いや、これから声かけようと……わかった。ごめん。帰る」

沙理、不満そうに和樹を見て、

沙理 「前科ある人に二次会とか。そんな権利ないから」

和樹 「ホントごめん。すぐ出るから。これ持って（ぬいぐるみを渡す）店の前で待ってて」

沙理、受け取るがその場から動かない。その場に  
いる女性を睨みつけている。  
和樹は列の先頭に割り込んで、荷物と上着を受け取  
る。

和樹 「ちよつと、ほら！ 行こう！」

受け取ったままの上着から、何かが落ちる。

床に落ちたのは指輪。

沙理が指輪を拾う。

緊張した面持ちの和樹となつみ。

沙理 「結婚指輪……」

沙理が涙を流し、うずくまる。

和樹 「お、おい」

沙理 「失くしたって言ってたじゃない」

和樹 「と思ったんだけど、今日会社のロッカーで見つけて……」

沙理 「見つかったならすぐ教えてよ。もしかしたら捨てたのか

もって……不安だったのに」

和樹 「ご、ごめん」

沙理はそのまま泣き続ける。

和樹 「（周りを気にして）とにかく帰ろう。な？」

和樹と沙理が出口へ向かう。

## 5.

### 駐車場（夜）

和樹が沙理を支えながら歩いている。

急に沙理が立ち止まる。

和樹 「ん？ これうちの車じゃないけど」

沙理 「指輪、なんでしてなかったの」

和樹 「えっ？」

沙理 「見つかったならはめておけばいいのに。なんで？」

和樹 「いきなり着けてたら変じゃん」

沙理 「結婚するのに指輪してないほうが珍しいでしょ。なん

か隠してるよね？」

和樹 「ないない。家帰ったら話そうと思ってたし」

沙理 「だったら今着けて」

和樹 「いや、なんでそんな急いでんの」

沙理 「いいから！」

沙理が指輪を和樹にはめようとするが、入らない。

沙理 「え？　なんで？」

和樹、申し訳なきように、

和樹 「俺、昔より太っただろ」

沙理が目丸くする。

和樹は自分のおなかを擦る。

和樹 「恥ずかしくて言えないっていうか、言いたくないっていうか」

沙理、笑いだす。

沙理 「あなたってそんなにオジサンになったんだ」

和樹 「やめろよ。俺だって認めたくないんだから」

沙理が諦めたようにため息をつく。

沙理 「あれから5年かぁ。私ぼっか、なんかバカみたい」

和樹 「そうさせた俺が悪いんだし。沙理はもっと責めていいよ」

沙理 「責め続けるのも大変なんだよ。許すのも大変だけど」

和樹 「そっか。そうだよな……」

沙理 「……今度、サイズ直し行く？」

和樹 「それは待って。痩せるから。指輪あると、いろいろモチベあがるし」

沙理 「そう？」

沙理が微笑む。

## 6. 漫画喫茶・個室（夜）

キスをする和樹となつみ。

なつみ 「奥さん、すごいね」

和樹 「今その話すんの？」

なつみ 「だってそのせいでデートなくなったわけだし」

和樹 「だから今日会ってるじゃん」

なつみ 「指輪も落とすし」

和樹 「それはごめんって」

なつみが和樹の右手から指輪を抜く。

なつみ 「こっちは入るけど」

和樹の左手薬指に指輪を当てる。

なつみ 「こっちには入らない」

和樹 「右のほうが細いからな」

なつみ 「痩せたら気付かれるんじゃないん？」

和樹 「痩せる気ないから大丈夫」

なつみ 「悪い人だなあ」

和樹 「知ってる」

なつみ 「結婚指輪と同じペアリングって鬼畜だよ」

和樹がなつみの指輪にキスをする。

和樹 「嫌じゃないでしょ」

なつみ 「うん。すごい刺激的……」

ふたりがゆっくりと唇を重ねる。

## 7. 武田宅・リビング（夜）

沙理がダイニングテーブルで考え込んでいる。

目の前にあるのは、ラップのかかった料理と車の鍵。

時計を見ると、22時。

車の鍵を取ろうとして、やめる。

自分の結婚指を見て微笑み、席を立つ。

おわり